国立大学法人岡山大学の平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果

１　全体評価

岡山大学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」を理念とし、「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」を基本目的に掲げており、第２期中期目標期間においては、個別領域における専門性のみならず自立した幅広い基礎的資質と能力を備えた人材を育成するために、各教育課程における学習成果の検証を伴う学士教育を実施すること等を基本的な目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、教育内容と目的達成度等の可視化を図る「学士課程教育構築システム」の整備、「エネルギー環境新素材拠点」によるプロジェクト研究の推進、国際交流会館の整備等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

業務運営については、優秀な学生に対し経済的支援を行う「成績優秀学生奨学金・研究奨励金」の新設、ダイバーシティ推進本部における男女共同参画や若手研究者の育成等の推進に取り組んでいる。

自己点検・評価については、評価センターにおいて、これまで受けた第三者評価結果と自己点検・評価との比較表を作成し、第１期中期目標期間の業務実績評価（原案）と併せて分析・検証に取り組んでいる。

その他業務運営については、優秀な外国人研究者及び留学生の獲得のため、国際交流会館を新築するとともに、省エネルギー機器更新計画に基づき、空調設備や照明設備について、省エネルギー効果が高い施設から更新するなど、環境負荷の低減に取り組んでいる。

教育研究の質の向上については、キャリア開発センターの設置によるキャリア教育と就職支援の充実、「国際共同創薬基盤センター」の設立による国際プロジェクト研究の推進、日韓欧 12 機関でパートナーシップを形成し大学院博士課程の学生、ポスドク研究者、教員の交流を行う事業「エラスムス・ムンドゥス・パートナーシッププログラム」などに取り組んでいる。

２　項目別評価

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　戦略的な組織運営を行うため、教員と事務職員が一体となって事業を推進する教職協働の組織として、「情報統括センター」、「国際センター」等を設置している。

○　障がい者雇用の推進において、「グッドジョブ支援センター」を設置し、障害者の能

力と適性を学内業務の支援に活用し、障害者雇用率は約 2.4 %となっている。

○　男女共同参画に向けて独自の「ウーマン・テニュア・トラック」制度により、女性教員を４名採用し、研究費を交付してスタートアップ支援を行っている。

○　若手のテニュア・トラック教員９名の進捗状況について、外部評価委員等による中間評価を行い、評価の高い３名に対しテニュアを付与し、職位を准教授（特任）としている。

○　教員活動評価に係るアンケート調査を全評価対象教員に対して行い、その結果をとりまとめて検証するとともに、意見が多く寄せられた問題点については、仕様等詳細を検討したうえで改善を行うことを決定している。

○　優秀な学生に対し経済的支援を行うことを目的に「成績優秀学生奨学金・研究奨励金」を創設している。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

（理由）　年度計画の記載７事項すべてが「年度計画を十分実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

（①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善）

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　小橋宿舎跡地の売却に当たっては、民間の不動産取引有識者に売却支援を委託して、一般競争での多くの入札参加者を募った結果もあり、予定価格を大幅に上回る売却収入を達成している。

○　契約形態の見直し等より管理的経費を節減させるとともに、「経費節減対策推進委員会」において、新たな取組を検討・実施しつつ常に取組状況を検証し、PDCA サイクルを１年に２回循環させる体制を確立している。

○　中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

（理由）　年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進）

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　これまでに受けた第三者評価結果と自己点検・評価の比較表を作成し、また、第 1 期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果（原案）を含めた分析・検証を行っている。

○　大学ウェブサイトについてユーザビリティに配慮した改訂を行った結果、全国大学サイトユーザビリティ調査の順位が平成 21 年度より上昇している。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

（理由）　年度計画の記載３事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

（①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守）

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　「キャンパスマネジメント委員会」において各施設の管理責任者から利用態様報告を求め評価を行い、その結果を基に各施設のスペース再編計画の策定に際して有効利用を推進するとともに、共同利用スペースを約 1,600 ㎡確保している。

○　環境負荷の低減のため、教育研究環境整備費等のうち一定割合の予算を確保し、省エネルギー機器更新計画に基づき、空調設備及び照明設備について省エネルギー効果が高い施設から順次更新している。

○　優秀な外国人研究者及び留学生の獲得のため、自己財源により国際交流会館を新築し、研究者用 47 室、留学生用 18 室を整備している。

○　教育研究環境の改善のため、教育・研究支援情報システムの更新により、最新のオフィスソフトや大型ディスプレイを備えた教育用パソコン 1,019 台をキャンパス内の情報実習室 20 か所に整備するとともに、学生が集う食堂や附属図書館などの 60 か所にアクセスポイントを設置して学内無線 LAN 環境を拡充し、自学自習のための環境を充実している。

○　研究費不正使用防止の取組として、機関経理を行う全ての経費を対象に物品の検収実施・使用状況等のモニタリングを実施するとともに、公的研究費等の使用に関する「取扱マニュアル」、「NG 集」、使用開始時における「チェックシート」を作成し、全教職員に配布している。このほか業務監査において公的研究費等の監査を実施するなど、内部チェック機能の強化を図っている。

【評定】　中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。 （理由）　年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究の質の向上の状況

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○　学士課程教育内容と目的達成度の可視化を図るコンピュータシステム「学士課程教育構築システム」を整備している。
○　平成 24 年度から、国際バカロレア資格取得者を対象に書類選考のみで入学資格を与えるなどの「国際バカロレア入試」を実施することを決定している。
○　キャリア開発センターを設置して、スタッフを充実させ、首都圏・関西圏への就職率も向上させている。
○　基礎研究領域、異分野融合研究領域、先端研究分野の研究を推進することを目的として、教育研究プログラム戦略推進本部にプロジェクト研究部門を設置し、推進拠点を指定しており、既存の 4 拠点に加え、新たに「エネルギー環境新素材拠点」を指定し研究成果を得ている。
○　「難治性感染症を標的とする創薬研究教育推進事業」により、「国際共同創薬基盤センター」を設立し、中国、韓国、インドネシア、ガーナなど各国の大学・研究機関と連携して、アジア・アフリカ地域に蔓延するマラリアなどの熱帯感染症や肝炎などの難治性感染症の治療薬創製のための国際共同研究を行っている。
○　米国知的財産コンサルタントとの契約を完了し、外国企業からの具体的な問い合わせや、成果有体物の有償譲渡等、知的財産の国際移転を推進している。
○　日韓欧 12 機関間でパートナーシップを形成し教員等の交流を行うエラスムス・ムンドゥスによる教育研究交流事業「エラスムス・ムンドゥス 2009-2013」に採択され、コンソーシアムを形成し、研究者の派遣及び受入れ等の交流を行っている。
○　附属学校では、学部の枠を超えて教員養成に取り組むという全国初の「教師教育開発センター」が設置されたことを契機に、同センターと連携して教育実習の事前・事後指導の徹底，学校サポータ活動の実践など，教育実習体制の改善を進める一方、地域社会全体を視野にいれた協力体制が確立されている。

共同利用・共同研究拠点関係

○　資源植物科学研究所及び地球物質科学研究センターは、「共同利用・共同研究拠点」に認定され、当該研究分野の中核拠点として、共同利用・共同研究の取組を設置大学の重点的な支援を受けて推進している。
○　資源植物科学研究所では、オープンラボや RI 施設等の整備とともに、大麦・野生植

物等の研究材料及びデータベースの整備を進めている。さらに共同研究員宿泊施設の建設を計画している。

○　地球物質科学研究センターでは、地球惑星科学において必要とされる物質科学的情報を導出できる分析体制とこれまでの研究活動実績が認められ、小惑星探査機「はやぶさ」が、小惑星「イトカワ」から回収し地球に持ち帰った極微小試料の初期分析の中心的役割を担う分析チームとして活動を行っている。

附属病院関係

（教育・研究面）

○　病院卒後臨床研修センターに専任助教や事務担当職員を配置し、卒後臨床研修の実施環境を改善することにより、マッチング数を着実に増加させ、多数の卒後臨床研修医を受け入れている。

○　遺伝子・細胞治療センターにおいて、岡山大学発、世界初である、「前立腺癌に対する REIC 遺伝子を用いた遺伝子治療臨床研究」を開始させ、順調に実施されているなど、臨床研究の推進に取り組んでいる。

○　「がんプロフェッショナル養成プラン」において、高度な知識、技術を持つ医療人の養成を順調に実施している。

（診療面）

○　改正臓器移植法に対応する為、提供・移植のシミュレーションを行うとともに、臓器移植医療センターを設置するなど、大学病院として新たな課題に積極的に取り組んでいる。また、心臓移植の実施施設として認定され、これにより膵臓を除く心臓・肺・肝臓・小腸・腎臓の移植が可能な施設となっている。

○　「がんサロン岡大」を隔月開催し、療養に関する知識の普及を実施している。また、「岡山県がん地域連携統括コーディネーター」を設置し、地域医療機関との連携を図るなど、地域がん診療の拠点として活動している。

（運営面）

○　病床稼働管理委員会を設置し、病床稼働の分析、対策の立案、診療科への周知徹底を行うことにより病床稼働率を向上させるなど、病院運営の効率化・適正化に取り組んでいる。